

(株)電算システム

岐阜市・総合ITサービス

従業員数 / 男性527名 女性194名 計721名 ※令和5年11月現在

エクセレント
POINT

- ①社員や家族が親睦を深められる交流の場を創出
- ②育児支援金を支給するなど社員の子育てを支援
- ③有休取得向上や労働時間削減の取組みに注力



育児支援金を受給した第一決済サービス事業部の田中竜太郎係長は、「里帰り出産など何かと支出が多い時に支給されるのはありがたかった」と話す。

加えて、年次有給休暇は3年間、最大60日まで保有でき、病気や育児、介護などで長期休暇の取得も可能で安心して働ける環境を整えている。

労働時間も各部署が削減に向けた対策を検討し、月1度のコンプライアンス委員会で共有するほか、処理の自動化にRPAを活用するなど

の取組みを行い、5年前と比較し1人あたりの年間時間外労働を49・5時間削減できた。この取組みの結果、20年に厚労省のベストプラクティス企業にも選ばれている。高橋讓太代表取締役社長執行役員は「今後社員1人ひとりが充実した人生を送れるよう、環境を整えたい」としている。

電算システムでは、風通しのよい職場風土を構築するため、岐阜まつりをはじめ、社員が年齢や部署を超えて交流できる場を積極的に設けている。年間4回ほど行う親睦行事を企画運営する「計和会」では、家族も参加できるボウリング大会などを行い、会社が会費の3分の1を負担。同会の役員を務めたカスタマーサービス事業部の平野鉄丸さんは「社員の人間関係を築けるのももちろん、家族が参加で

きる場では家庭環境の相互理解も進み、アットホームな風土づくりにつながっている」とその意義を語る。

2020年からは、育児における生活面の負担軽減に向けて、扶養に入れる子どもが生まれた社員へ60万円の育児支援金を支給。育児参加への意識向上にもつながり、男性の育児休業や育児短時間勤務の取得推進を支援している。



社員が集い神輿を担ぐ4月の岐阜まつりは大切な交流の場になっている。

家庭との両立へ環境と風土を構築